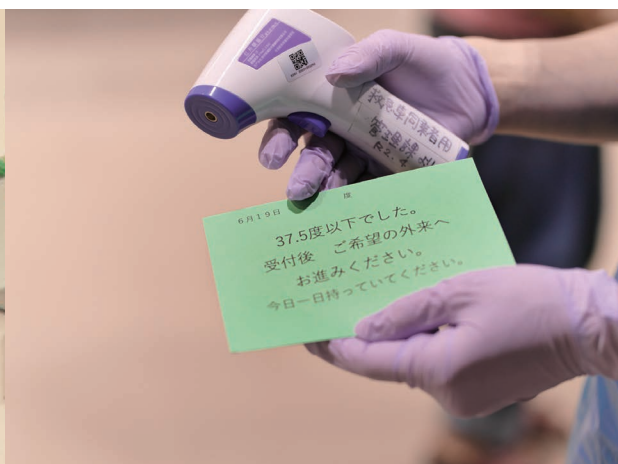




7 月号
2020 No.02



中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

SPECIAL REPORT

西尾市民17万人の
生活を守るために。

感染症対策特集

CONTENTS

- ① Cure 病気のおはなし
- ② Care 療養支援のおはなし
- ③ 地域医療を支える新しい力
- ④ 地域医療の豆知識
- ⑤ NEWS & TOPICS

Message
院長メッセージ

新型コロナウイルス感染を懸念した、患者さんの「受診控え」が社会的な問題となっています。慢性疾患をお持ちの方にとって、感染症予防とともに重要なのは、主治医とともに、しっかりと体調管理をしていくことです。自己判断での受診控えや服薬の中断により、症状の悪化を招かないためにも、感染症を正しく恐れ、適切な受診を心掛けていただきたいと思います。

SPECIAL REPORT

西尾市民17万人の 生活を守るために。

感染症対策特集

市民のための病院として、いつ何が起こっても
市民を守れるように準備してきた。

CHAPTER 01 迫り来る感染拡大の脅威に スピーディに対応。

新型コロナウイルス感染症対策において、西尾市民病院の対応は早かった。早期から院内感染対策委員会を開き、具体的な感染症対策を協議。もともと陰圧室（ウイルスや菌が外部に流出しない部屋）のあった病棟を、感染症対応のための病棟へ転換することを決定した。3月10日までに、病棟前の廊下に空気の流れを遮断するユニットを設置し、その先に、感染の疑いがある患者にも対応できる専用の病床を3床確保した。同院は感染症指定病院ではない。しかし、「万一、市民の方が陽性になり、入院治療が必要になっても、近隣の感染症指定病院が満床であれば行き場がなくなってしまう。そうならないように、私たち市民病院がしっかりと受け入れ準備をしようと考えました」と語るのは、院内感染対策委員会委員長の和田応樹副院長である。この病棟を用意したことにより、新型コロナウイルスの感染拡大期も慌てることなく救急患者に対応できたという。「発熱症状があり、感染症の疑いのある場合は、この病棟に一時的に入院していただき、検査の結果、陰性であれば、一般病棟に移っていただきました。院内感染を防ぐ意味でも有効に活用できました」（和田）。

病棟の準備に加え、3月23日から水際対策にも着手した。診察などで病院を訪れた人全員の体温を測定すると同時に、

敷地内にテントを設け、発熱者のための外来を開設。37.5度以上の人は問診をして、疑いのある場合は陰圧室で感染の有無を調べる体制を整えたのだ。

こうした一連の対策を進めてきた経緯について、院内感染対策委員会の青木美由紀（感染管理認定看護師）は次のように話す。「最初に強い危機感を持ったのは、2月にクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の陽性者を、岡崎の施設で受け入れることを知った頃でした。その後、蒲郡で感染者が飲食店を訪れた事件が起きたり、近隣の病院で院内感染が発生したりして、ここにも新型コロナウイルスが迫ってくる恐怖を感じました。でも、そういうときだからこそ、当院は市民の皆さんが安心して医療を受けられる病院でなくてはなりません。そのために、院内でクラスター（感染者集団）を出すわけにはいかないとしました」。

C O L U M N

●西尾市民病院では、新型コロナウイルスが猛威を振るい出した初期から、感染防護具の不足に苦しんできた。備蓄や寄付だけでは間に合わず、マスクの使い回し、雨合羽の代用などで切り抜けてきたのだ。

●さらに、職員による手作りも推奨。手の空いた職員が交代で、市販のゴミ袋とガムテープを使って、長袖エプロンを仕上げてきた。しかし、今も長袖エプロン、手袋、マスク、N95マスクが不足しており、大きな課題となっている。



CHAPTER 02 院内感染に対する危機感を 職員全員で共有してきた。

感染による病院閉鎖は絶対に避けなくてはならない。同院の職員たちが、一丸となつて感染予防に取り組めたのは、どうしてだろうか。青木は次のように語る。「実は、当院では13年前に、多剤耐性菌による院内感染が発生し、患者さん大変なご迷惑をかけたことがあります。その苦い経験があったからこそ、二度とあんなことは起こしてはならないという強い気持ちを職員が共有し、同じ方向を向いて取り組めたのだと思います」。同院ではそのできごとを契機に、院内の感染対策を徹底的に強化。手指消毒の徹底など職員の衛生意識の向上を図り、院内感染対策チームの活動に精力的に取り組んできた。さらに昨年、新型コロナウイルスエンザの対策マニュアルを見直したばかりで、感染症に対する基本的なガイドラインがしっかり構築されていたといえるだろう。但し、課題も見えてきた。たとえば、防

護具の圧倒的な不足である。現在も職員が手作りして急場をしのいでいる状況で、ハード面の整備は秋冬に向けての大きな課題だ。また、外来の充実に取り組む計画も持つ。「現在、一般の外来とは別に、発熱者のための外来を2カ所開設していますが、患者さんの急増に備え、もう1カ所増やす予定です。感染症のための病棟は現状のまま維持し、近隣の感染症病床が満床になったとき、受け入れられるよう準備します」と和田は話す。同院では、早くも第2波に照準を定め、感染対策の強化に動き出している。「幸い、これまで市内の感染者は非常に少なく、第1波は抑え込むことができました。でも、寒くなればインフルエンザと新型コロナウイルスの両方が流行することも考えられ、油断はできません。いつどんな状況になっても、市民の皆さんの健康と生活を守るのが、私たち市民病院の使命です。その高い志を持って、これからも準備を進めていきます」。和田は決意を込めて、そう語った。

BACKSTAGE

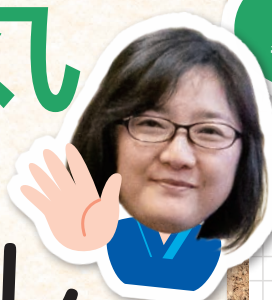
すべては市民のためにという、
市民病院の覚悟と使命感。

●もし市民に感染者が出て、どこにも行き場がなくなったら、自分たちが全力で守らなくてはならない。西尾市民病院はここ数か月、その強い覚悟と使命感を持って、感染対策に全力を注いできた。

●職員は使いまわしのマスクと手作りの防護具に身を包み、献身的に働いてきたが、なかには偏見や差別を感じた人もいたという。第2波に向け、市民のために闘う医療従事者と病院をもっと地域全体で応援していくことが重要ではないだろうか。



キュア Cure 病気の おはなし



先生、
教えて！

テーマ

糖尿病



最も大切なのは、生活習慣の改善。
さまざまなツールや機器を活用し、
合併症を予防しましょう。

01 進行すると重篤な合併症を引き起こします。

糖尿病は、インスリン(血中から体内に糖を取り込むホルモン)の分泌や効きが何らかの理由で悪くなり、血糖値が高くなる病気です。主に免疫系の異常によって引き起こされる1型と、生活習慣(過食、運動不足等)やストレスなどが原因の2型に分かれ、糖尿病患者の約9割は2型糖尿病といわれています。

糖尿病の怖さは、病気の進行とともに合併症が生じる点です。特に発生しやすい合併症としては、神経障害、網膜症、腎症の3つがあり、3大合併症と呼ばれています。他にも、足の壊疽(えそ)や脳卒中、狭心症など、身体・生命に関わるさまざまな合併症があります。

02 血糖値の変動状況を把握する新しい機器が登場しています。

糖尿病の治療は、生活習慣の改善を軸に、食事療法、運動療法、薬物療法を組み合わせで行います。その組み合わせ方は、患者さんの病状や生活環境によって千差万別で、血糖値などで治療効果を確認しながら細かく調整していくことが大切です。

そして近年、こうしたオーダーメイドの糖尿病治療をサポートする機器と

して、フラッシュグルコースモニタリング(FGM)が注目されています。FGMは血糖測定器の一種で、上腕につけたセンサーに専用リーダーをかざすことで、2週間、おおよその血糖値とその変動をリアルタイムで把握できるものです。これまでの血糖測定方法に加えて、連続的な血糖値の推移を知ることができるので、一人ひとりの傾向に合わせて、より精度の高い治療がめざせるようになり、患者さんの自己管理にも役立つと期待されています。



Message

医師からのメッセージ



内分泌内科 医長
川久保充裕

新しい機器を導入し、治療の選択肢を拡げています。

当院では、主にインスリン等の自己注射を行っている方を対象にFGMを活用しています。また、令和2年3月からは、新しく持続血糖測定器(CGM)を導入し、自己注射をしていない患者さんについても、2週間の血糖推移を見ることができるようになりました(※)。

糖尿病治療に用いる、薬やインスリン、機器は年々進化しています。そして、それらの多くは、糖尿病治療の効果を高め、負担を軽減してくれるものです。当院では、FGMやCGMに加え、1型糖尿病患者さんに対するSAP療法など、幅広く治療の選択肢を用意しています。糖尿病でお悩みの方は、ぜひ一度ご相談いただければと思います。

※リアルタイムではなく、2週間後に医療機関でデータを確認します。

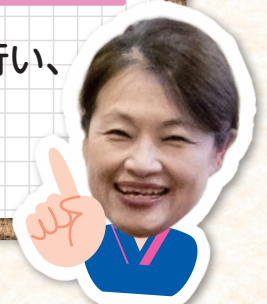
療養支援 の おはなし

テーマ

糖尿病療養指導士

病気を治すだけ
じゃありません。

糖尿病患者さんに生活指導を行い、
自己管理を継続できるよう、
全力でバックアップします。



01 糖尿病の生活指導に関する、 エキスパートです。

糖尿病を正しくコントロールするには、生活習慣を自己管理し続けることが大切です。しかし、患者さんが自分で健康的な生活習慣を作り、維持することは簡単ではありません。そういった糖尿病患者さんの自己管理を支援するため、専門的な知識・経験に基づいて生活指導を行うのが糖尿病療養指導士(CDE)です。

現在、日本には、日本糖尿病療養指導士(CDEJ)と地域糖尿病療養指導士(CDEL)という2種類の資格があり、糖尿病療養指導の経験を持つ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士(※)のなかで試験に合格した人が、糖尿病療養指導士として認定されています。

※CDELについては5職種以外の医療職も取得可能。対象職種は地域によって異なります。

02 4職種の糖尿病療養指導士が 連携して患者さんを支えます。

当院には、令和2年6月時点で、看護師5名、管理栄養士2名(CDEJ 1名、CDEL 1名)、薬剤師3名、理学療法士2名の糖尿病療養指導士が在籍し、それぞれの部門で活躍しています。食事、

運動、服薬…とさまざまな角度からのアプローチが必要になる糖尿病治療においては、医師だけでなく多職種が協働して患者さんを支えることが重要です。当院では「生活全般や行動変容に対する指導」を担う看護師と、「食事・栄養に関する指導」を担う管理栄養士を中心としながら、「服薬等に関する指導」については薬剤師が、「運動療法に関する指導」は理学療法士がというように、それぞれが専門性を活かし、連携しながら糖尿病患者さんをサポートしています。



Message

私たちが支援します



坂部直美
(看護師／糖尿病療養指導士)

患者さんが、少しでも治療に前向きでいられるように。

外来看護師として、主にフットケア外来などで糖尿病の療養指導を行っています。そのなかで私は「患者さんのモチベーションを高める」ことをいつも心がけています。検査数値が悪かったり、自己管理が上手いかなかったりすると、どうしても気分は落ち込みます。私たち看護師の役割は、そうした患者さんを励まし、褒め、少しでも前向きになっていただくこと。信頼関係を大切に「治療の自己中断」という不幸な結果を招かないよう、全力で支援しています。

フットケア外来 第1、第3金曜日 午前9時～11時 詳しくは主治医にご相談ください。

地域医療を支える

新しい力

チカラ

新人対談企画

初期臨床研修医

新人看護師



私たちの
仲間を
ご紹介。

環境を活かし、これからも成長し続けたい。



お二人は、初期研修病院※として、就職先として、なぜ西尾市民病院を選びましたか？

※医師は医学部を卒業し医師免許を取得後、2年間は初期研修が義務づけられています。

野田 大学や地元に近い三河地域のなかで、それほど規模の大きくない病院を探していて、その条件に一番マッチしたのが西尾市民病院でした。

坂元 大きい病院は良くないんですか？

野田 そういうわけじゃないよ。ただ、研修医の少ない中小病院の方が、学びたいと思ったことをある程度自由に学べる環境があると思う。実際、自分で考え、能動的に学びたい僕にはピッタリだったと思います。坂元さんの志望動機は？

坂元 この病院での実習がきっかけです。患者さんとの距離感が近く、じっくりと看護ができそうでしたし、スタッフの皆さんもとても楽しそうに働いていて、魅力を感じました。

野田 入職してからはどんな1年間だった？

坂元 ついていくのに必死でした。ただ、この病院はPNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）を導入しているの

で、パートナーである先輩に教えてもらいながら、安心して働けたのはありがたかったです。野田先生はどうでしたか？

野田 環境としては、ある程度自分が思っていたイメージに近かったかな。初めのうちは救急業務が怖い時期もあったけど、自分で調べたり、先輩や指導医の先生方に教えてもらったりしながら、少しずつ診療能力を高められたと思います。



今後どのように成長していきたいか、目標を聞かせてください。

野田 この病院には、やる気のある人に対してとことん応えてくれる環境があります。今後も、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、医師としての基礎を確かなものにしていきたい。そして、その先で地域に貢献できる医師になれたらいいですね。

坂元 私は、1年目に担当した患者さんから言われた「坂元さんが受け持ちでよかった」という言葉が忘れられません。これからも、一人でも多くの患者さんに、私が担当でよかったと思ってもらえるよう、患者さんとじっくり向き合いながら、成長を続けていきたいです。



いつも笑顔を絶やさず、自分のやれることに精一杯取り組んでいます。



後輩からの質問にも正しく答えられるよう、研鑽を積む毎日です。

初期臨床研修医(2年目)

野田士園(のだしおん)

静岡県浜松市出身。研修医同士の関係がとても良いことが自慢です。

新人看護師(2年目)

坂元理紗(さかもと りさ)

愛知県碧南市出身。今は4科の混合病棟で、多種多様な看護を経験中です。

こんな言葉知っていますか？ 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 感染対策ネットワーク

今回は
〈感染対策ネットワーク〉
について学びましょう



地域の医療機関が専門チームを設置し、ネットワークを形成しながら、感染対策に取り組んでいます。

感染症から地域を守るには、私たち医療機関が院内感染対策を徹底し、連携しながら感染対策に取り組むことが重要です。

現在、病院を中心とした多くの医療機関では、院内に「感染対策の専門チーム」を設け、院内感染対策に向けた仕組み作りや職員教育・指導、情報収集などに取り組んでいます。またそれらの医療機関は、単独での活動だけでなく、地域のなかで「感染対策ネットワーク」を形成。定期的に情報交換を行ったり、体制の充実した医療機関が他の医療機関を支援したりしながら、院内感染を起こさない、拡げないために活動しているのです。そして、このような医療機関の取り組みは「感染防止対策加算」という形で、国の制度上も評価されています。

最近では、こうした医療機関同士のネットワークに加え、高齢者施設や、薬局、行政などが一体になった、感染対策の地域ネットワーク作りも模索されています。但し、新型コロナウイルス対策然り、感染対策には施設や機関の取り組みだけでなく、一人ひとりの意識・行動が大切です。皆さんも普段から感染対策を心がけるようにしていただければと思います。

西尾市民病院では

感染対策の中核施設として、西尾市を中心としたエリアを支えています。

感染防止対策加算1(※)を算定する当院は、西尾市を中心とした地域における感染対策の中核機能を担う病院です。院内には多職種から成る「院内感染対策チーム」を設置し、近隣の医療機関・施設と連携しながら、地域全体の感染対策力向上をめざして活動しています。

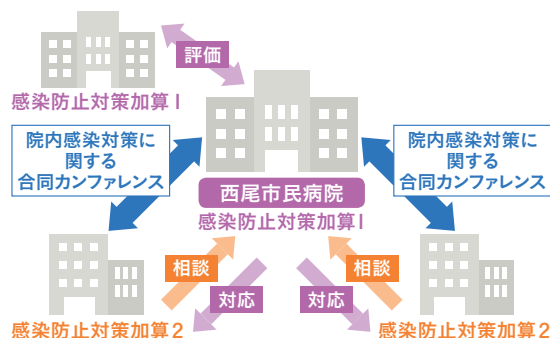
最近では、主に新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組んでおり、院内感染対策はもちろん、地域の医療機関などから寄せられる「物品不足時の対応法」や「感染防止に向けた環境整備の仕方」といった相談に対し、感染管理認定看護師を中心にアドバイスを行っています。

現在、感染は落ちつきを見せていますが、新型コロナウイルスへの対応は長期化が予想されます。当院の感染対策の水準は、地域の感染対策の水準に直結する

もの。今後も、気を緩めず、感染対策に力を入れていきたいと思っています。

※感染防止対策加算には1と2があり、より充実した体制の医療機関が「加算1」を、それに次ぐ医療機関が「加算2」を算定可能。

院内感染対策に向けた医療機関のネットワーク



01

外来糖尿病教室を始めました

令和2年7月より、外来糖尿病教室を開催しています。これは、毎月1回、内分泌内科の医師及び、糖尿病療養指導士の資格を持つ、当院の看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士らが講師となり、外来で糖尿病教室を行うものです。第1回は、「with(ウィズ)糖尿病! 当院のフットケア外来の紹介」と題し、坂部直美看護師が講師を務めました。当院以外へ通院中の方も含め、幅広くご参加いただける会です。ぜひ、ご参加ください。

第2回 外来糖尿病教室

令和2年8月12日(水) 午前10時～10時30分

テーマ 「夏を乗り切る!

知っておきたい糖尿病患者の熱中症対策」

担当 内分泌内科医師、管理栄養士(予定)

※新型コロナウイルス感染予防のため、マスク着用、病院入口での検温・消毒のご協力をお願いいたします。

予約不要
参加無料

02

「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策」について

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言は解除されましたが、当院では、引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、下記のような対策を実施しております。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

- 来院時のマスクの着用、こまめな手洗いや手指消毒のお願い
- 面会を原則禁止(※日時が記入された、面会許可証が発行されている方は除く)
- 来院される全ての方の体温測定の実施
- 正面玄関の開錠時間の変更(午前7時30分)

詳しくは当院のホームページをご覧ください。 <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



03

マスク等のご寄付に対するお礼

新型コロナウイルス感染拡大でマスク等の感染防護物品の供給不足が生じている中、複数の個人・企業・団体様より、当院へマスクや防護服をはじめとしたご寄付をいただきました。皆さんの温かいご支援に心から感謝を申し上げますとともに、感染予防のために、大切に使用させていただきます。当院では、今後も地域の皆さんに安心安全な医療を提供できるよう努めてまいります。このたびは、誠にありがとうございました。

看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

安心して働ける
サポートがあります。



病院広報誌 特設サイト

Ciao

こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと「西尾市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171 (代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>

Ciao

7月 2020
月号 No.02

発行責任者/ 院長 棚宣田 政隆
発行/ 西尾市民病院 広報委員会
記事提供/ 中日新聞広告局
編集協力/ プロジェクトリンク事務局
発行日/ 2020年7月30日